

米国アカデミー賞公認 国際短編映画祭 ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2013
話題賞に中尾明慶、特別賞に河瀬直美が決定
観光映像大賞、ミュージックShort部門シネマチックアワード
モエ スター アワード 各受賞作品を発表

米国アカデミー賞公認、アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」(SSFF & ASIA)が、5月23日(木)～6月16日(日)まで東京・横浜で開催します。俳優の別所哲也が1999年に立ち上げたもので欧米のショートフィルムを日本に紹介してきた「ショートショート フィルムフェスティバル(SSFF)」は2013年の開催で15周年、日本を含めアジアの映像作家の作品を紹介してきた「ショートショート フィルムフェスティバル アジア(SSFF ASIA)」は10周年を迎え、現在、この2つの映画祭が「SSFF & ASIA」として同時開催されています。今年は“Anniversary”をテーマに様々な特別プログラムを実施します。今年も祝祭の年にふさわしく、話題賞をはじめとする各賞が決定致しました。

日本のショートフィルム文化の発展・普及に貢献した作品・人物に贈られる「話題賞」には、数々の映画・ドラマ・舞台に出演し、昨年初監督作品となるショートフィルム『3G』を発表して注目を集めた中尾明慶さん。また、ショートフィルムを通じて、メディア、映像業界において、特別な貢献をされた作品・人物に贈られる「特別賞」には、今年カンヌ国際映画祭で審査員を務め、SSFF & ASIAでも自身のショートフィルム上映歴のある河瀬直美さんに決定致しました。

観光映像大賞は、広島県観光大使の有吉弘行さんを始め、広島県にゆかりのある著名人、地域の方々など総勢約650名の出演者とスタッフが参加した『おいしい! 広島県 THE MOVIE』に、そして、観光映像大賞の特別賞としてみうらじゅん & 安齋肇が活動するユニット『勝手に観光協会』の受賞が決定しています。

また、ミュージックShort部門の優秀賞、シネマチックアワードは、倅田来未×蜷川実花×安野モヨコによるコラボで話題となったUULAが制作するオリジナルミュージックビデオ『ピンクスパイダー inspired by バッファロー5人娘』に決定し、未来の映画業界を担う輝くスターに贈られるアワード、モエ スター アワードには南アフリカの監督Greg Rom氏が決定致しました。グランプリを含む、各部門の優秀賞は6月9日(日)に明治神宮 神宮会館にて行われるアワードセレモニーで発表されます。

報道関係者の皆様におかれましては、アワードセレモニーのご取材賜りますようお願い申し上げます。

■話題賞・特別賞

①話題賞:日本のショートフィルム文化の発展・普及に貢献した作品・人物に贈られる。



中尾明慶(なかお あきよし)

1988年6月30日生まれ。東京都中野区出身。
 ドラマ『GOOD LUCK!!』に出演し注目を浴び、その後も「ROOKIES」ほか数々のテレビドラマ・映画・バラエティ番組などで活躍。現在はテレビ東京「スーパーGTプラス」でMCもつとめるほか、8月には主演舞台「タンブリング」があり、映画『東京難民』が秋公開予定。2014年には映画『俺たちの明日』が公開を控えている。



『3G』 監督・脚本 中尾明慶 13:00

中尾明慶の初監督・脚本作品。ファンイベントで上映されたこの作品は、芝居もできて、映画も作ることができるという目標のもと作られた作品。「3Kの時代は終わった。モテル男は3G! 3Gをためて人生が変わった。これはすごい!」女の子にモテたいと願う青年が、友人からのメールに従い、コンパで出会った女の子に3Gを実践してみるが・・・。

②特別賞:ショートフィルムを通じて、メディア、映像業界において、特別な貢献をされた作品・人物に贈られる。



映画作家 河瀬直美(かわせ なおみ)

奈良市生まれ。大阪写真(現ビジュアルアーツ)専門学校映画科卒業。劇場映画デビュー作「萌の朱雀」でカンヌ国際映画祭新人監督賞を史上最年少受賞。その後、「火垂(ほたる)」(2000年)「沙羅双樹」(2003年)「垂乳女/Tarachime」(2006年)などで映画祭での受賞を重ねる。「殞の森」は2007年カンヌ国際映画祭でグランプリを受賞。2008年には初期ドキュメンタリー集DVDBOX「紡ぐ」をリリース、また新作「七夜待(ななよ まち)」が公開された。2010年より開催予定の「なら国際映画祭」エグゼクティブディレクターを務める。

■第二回観光映像大賞について

各都道府県で制作されている観光プロモーション映像・ビデオで、“観光振興”という観点で創造性、振興性、話題性を含んだ作品に与えられる観光映像大賞では、ご当地のゆるキャラや戦隊シリーズ、ドキュメンタリーやドラマ、CM作品まで、全国各地から様々なジャンルの277作品の応募がありました。観光映像大賞(観光庁長官賞)に『おいしい! 広島県 THE MOVIE』が、また、観光映像大賞の特別賞みうらじゅんさんと安齋肇さんによるユニット『勝手に観光協会』が選ばれました。受賞2作品含む観光映像大賞の応募作品は特設サイトよりご覧いただけます。

観光映像大賞概要

- 主催: ショートショート実行委員会 観光映像課
- 後援: 国土交通省観光庁/全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会
- 協力: 株式会社エイチ・アイ・エス/ジャパン・フィルムコミッション
- 特設サイト: http://www.shortshorts.org/kankou_taishou/

観光映像大賞(観光庁長官賞): 各都道府県の観光プロモーション映像の中で、“観光振興”という観点で最も創造性、振興性、話題性を含んだ作品に贈られる。



『おいしい! 広島県 THE MOVIE』

広島県の観光キャンペーンのプロモーションビデオとして制作。広島県には、魅力ある豊富な観光資源を有しているのに、全国にあまり知られていないことが、実に「おいしい!」ことであり、まず広島県に注目していただくために、広島県観光大使である有吉弘行さん、秘書として杉原杏璃さん、その他、広島県にゆかりのある著名人の方々、地域の方々、県庁職員総勢約650名の出演者とスタッフが参加し、生産量日本一の広島レモンや牡蠣、おいしい三原タコなど、「おいしい!」ではなく「おいしい!」広島の魅力、オリジナルソングに乗せてPRした。オフィシャルHP: <http://oc-h.jp/movie/>

観光映像大賞特別賞



『勝手に観光協会』

みうらじゅん&安齋肇により1997年結成。頼まれもしないのに、勝手に各地を視察し、勝手に観光ポスターを制作し、勝手にご当地マスコットを考案し、勝手にご当地ソングを作詞・作曲・旅館録音(リョカ録)し続けている大きなお世話ユニット。2004年より9年かけて40の都道府県を対象として活動した。オフィシャルHP: <http://www.discberry.com/kanko/index.html>

■ミュージックShort部門 シネマチックアワード

ミュージックShort部門の優秀賞、シネマチックアワードは、倅田來未×蜷川実花×安野モヨコによるコラボで話題となったUULAが制作するオリジナルミュージックビデオ『ピンク スパイダー inspired by バッファロー5人娘』に決定致しました。

監督を務めたのは、昨年大ヒットを記録した映画『ヘルタースケルター』を手掛けるなど幅広いフィールドで活躍し、マルチな才能を発揮する蜷川実花。その蜷川監督が、かつてから「映像化したい」と熱望していた安野モヨコ作「バッファロー5人娘」を原案に、蜷川ワールド全開のビビッドな色づかいと華やかな衣裳、そして倅田來未の真骨頂“セクシーでかっこいい”スタイリッシュでパワフルなストーリー仕立てのミュージックビデオを完成させました。



『ピンク スパイダー inspired by バッファロー5人娘』

アーティスト: 倅田來未×蜷川実花×安野モヨコ

監督: 蜷川実花 / 12:41 / 2013

<ストーリー>

舞台は西部開拓の頃のアメリカ・・・娼館で働く腕っぶりも強く器量よしのキャンディ、スージー、ダリア、ルビー、ココ。ある日キャンディとスージーが娼館から逃亡。組織から逃げる道中、行く街の娼婦(ダリアほか)と出会い、そこで恋にまつわるトラブルに巻き込まれる。最初は荒んでいた娼婦たちだがキャンディを中心にトラブルを乗り越え、次第に仲間意識が芽生えていく・・・

<作品概要>

「ピンク スパイダー inspired by バッファロー5人娘」は、時代を越えても色褪せない普遍的なメッセージ性で絶大な人気を誇る名曲「ピンク スパイダー」(hide with Spread Beaver/1998年発売)を、倅田來未が“倅田らしく”アレンジを加えたカバー。そして、その同曲が持つ詞の世界観と、人気漫画家・安野モヨコの未完の名作マンガ「バッファロー5人娘」(祥伝社/2013年1月発行)の世界観をモチーフに、蜷川実花が映像化した総合エンタメアプリUULAが発信する音楽と映像のコラボレーション作品第一弾になります。

■モエ・スターアワード について



モエ スター アワードは、シネマに愛されるシャンパンブランド「モエ・エ・シャンドン」と「SSFF & ASIA」に共通する5つの哲学(「パイオニア精神」「グローバルな視点」「洗練された価値創造」「自己達成力」「わかちあう心」)を持ち未来の映画業界を担う輝くスターに贈られるアワードかつ両ブランドのイメージにマッチした未来の映画業界を担う輝くスターに贈られるアワードです。本年度、SSFF & ASIAにて上映された作品の中から3名がノミネートされました、それらの作品の中で、斬新な映像表現が評価され、輝くスターとしてGreg Rom(南アフリカ)監督「LOOT 泥棒」がアワードを授与されました。

モエ・スター・アワード:



「LOOT 泥棒」

ストーリー: 不可思議な装いの強盗が銀行に押し掛けるが、彼らを取り出したのは武器ではなく、巧みな“計画”であった…。現実とイマジネーションの境目が分からなくなる、驚きのストーリー



監督: Greg Rom(南アフリカ)

南アフリカ、ヨハネスブルク生まれ。物語を話すことが大好きでミュージックビデオを撮り始める。2006年にコマーシャルの監督を始めると、映画への夢を膨らませる。2010年本作に取り組み始め、2012年7月に自費で映画監督デビューを果たす。現在は、南アフリカだけでなくインドのCM業界でも活躍中。

■ショートショート フィルムフェスティバル & アジア(SSFF & ASIA)について

米国アカデミー賞公認、日本発・アジア最大級の国際短編映画祭。新しい映像ジャンルとして「ショートフィルム」を日本に紹介するため、米国俳優協会(SAG)の会員でもある俳優の別所哲也が、俳優の別所哲也が1999年に立ち上げたもので、欧米のショートフィルムを日本に紹介してきた「ショートショート フィルムフェスティバル(SSFF)」は、2013年の開催で15周年、また、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成目的から2004年に誕生した「ショートショート フィルムフェスティバル アジア(SSFF AISA 共催:東京都)」は10周年を迎えます。現在、この2つの映画祭が「SSFF & ASIA」として同時開催されており、アジア最大級の国際短編映画祭へと成長しています。2008年には、横浜みなとみらいにショートフィルム専門映画館、ブリリア ショートショートシアターを設立。映画祭としてはこれまでに延べ27万人を動員し、日本にショートフィルムを啓蒙する役割を果たすべくその活動領域を広げています。

同年には当時の東京都知事、石原慎太郎氏の発案により、アジア発の新しい映像文化の発信、新進若手映像作家の育成目的からショートショート フィルムフェスティバル アジア(SSFF ASIA) を立ちあげ、現在はSSFFとSSFF ASIAという2つの映画祭が「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア(SSFF & ASIA)」として同時開催されており、アジア最大級の国際短編映画祭へと成長しています。2008年には、横浜みなとみらいにショートフィルム専門映画館、ブリリア ショートショートシアターを設立。映画祭としてはこれまでに延べ27万人を動員し、日本にショートフィルムを啓蒙する役割を果たすべくその活動領域を広げています。

また、ロサンゼルス、シンガポール、ミャンマー、メキシコ、マレーシアと海外に展開も重ねるほか、海外映画祭との幅広いネットワークをいかし、日本作品を海外へ向けて発信する活動も積極的に行っています。本映画祭では、2007年に『MEI 美』がノミネートとなり、『台北の朝、僕は恋をする』で長編デビューをしたアーヴィン・チェン監督、『881 歌え! パパイヤ』がシンガポールで大ヒットとなったロイストン・タン監督、2010年に米国アカデミー賞にノミネートされた『マイレージ・マイライフ』のジェイソン・ライトマン監督など、本映画祭を経てチャンスを掴み、長編監督として成長していった例も少なくありません。今や第一線で活躍するこれらの監督のように、世界に羽ばたく若きクリエイターを本映画祭はこれからも応援していきます。

「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2013」のみどころ

TOPICS 1 日本劇場初公開作品含む15人の著名監督らの作品を特別上映！

学生時代のジョージ・ルーカスが監督した作品『THX1138 4EB』ほか
アカデミー賞監督賞受賞のアン・リー監督、日本からは原田真人監督など著名監督らによる日本劇場初公開作品含む15作品を上映。
テリー・ギリアム監督の新作ショートフィルムも。



『聖なる家族』監督:テリー・ギリアム

TOPICS 2 米国アカデミー賞公認の映画祭が贈る「世界最高峰のプログラム！」

今年のアカデミー賞短編部門ノミネート・受賞作品を含むハイクオリティな作品を特集上映します。第85回米国アカデミー賞短編実写部門受賞作品『リッチーとの一日』(原題: Curfew)も上映します。



『リッチーとの一日』監督:シヨン・クリステンセン

TOPICS 3 6月4日“ショートフィルムの日”は全プログラムが無料に

1999年の初年度開催日にちなみ制定された6月4日の“ショートフィルムの日”(日本記念日協会認定)は各会場、すべてのプログラムを無料鑑賞できます。
<日程> 6月4日(火) <会場> ラフォーレミュージアム原宿、ブリリア ショートショートシアター(横浜会場)

【各部門の紹介】

本映画祭は、グランプリ作品が米国アカデミー賞短編部門のノミネート選考対象作品となる「オフィシャルコンペティション」をはじめ、「音楽」「環境」「CGアニメーション」など、様々なカテゴリーの上映プログラムで構成されています。本年度は、6つの部門と、その他の特別プログラムを上映予定です。

【アワード構成について】

オフィシャルコンペティション(米国アカデミー賞短編部門ノミネート選考対象部門)

| | | | |
|------------------|------------|-----------|-----------------|
| ①インターナショナル部門 | 総応募数: 3529 | 上映数: 47作品 | 上映作品の参加国と地域: 27 |
| ②アジア インターナショナル部門 | 総応募数: 759 | 上映数: 17作品 | 上映作品の参加国と地域: 10 |
| ③ジャパン部門 | 総応募数: 295 | 上映数: 16作品 | ※日本人監督の作品を上映 |

オフィシャルコンペティションでは4538本の作品が世界から集まり、その中からメッセージ性、エンターテインメント性の優れた選りすぐりの80作品を上映し、部門ごとに1作品を優秀賞として選定。各部門で優秀賞を受賞した3作品の中から選出されるグランプリ作品は、第86回(2014年)の米国アカデミー賞短編部門ノミネート選考対象作品となります。

④CGアニメーション部門 supported by デジタルハリウッド

海外映画祭で賞の獲得を狙う最新注目作から、ハリウッド作品も顔負けのエンタテインメント作品まで、世界各国から集まったハイクオリティなCGショートフィルムを上映します。本年度は147本の応募がありました。

⑤地球を救え！部門

SSFF & ASIAが環境省と共に2008年に立ち上げた地球温暖化をテーマとした部門である「ストップ！温暖化部門」が、2013年は「地球を救え！部門」として生まれ変わりました。地球温暖化問題だけでなく、地球環境に関する様々なテーマの作品を募集、本年度は155本の応募があり7作品を上映します。

⑥ミュージックShort部門

アーティストのミュージックビデオの中から、ショートフィルムの視点でセレクトされた物語やドラマを感じる作品と、アーティストの楽曲をもとに、監督たちが創り上げたオリジナルショートフィルムを特集上映します。

【SSFF & ASIA 2013 開催概要】

■名称

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2013

■主催

ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会

■日程・会場

5月23日(木)、24(金)、6月7日(金)、8(土)
会場:東京スカイツリータウン® スペース634

5月31日(金)、6月1日(土) オールナイト上映
会場:TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

6月1日(土)～6月5日(水)
会場:ラフォーレミュージアム原宿

6月6日(木)～6月8日(土)
会場:表参道ヒルズ スペース オー

■ナショナルツアー

6月1日(土)～16日(日) (横浜開催)
会場:ブリリア ショートショート シアター

※初夏、大阪での開催も予定

| 月日 | 開催場所 | | | | |
|------------|-------------|-----|----|-----|----|
| | 東京スカイツリータウン | 六本木 | 原宿 | 表参道 | 横浜 |
| 5月 23日 (木) | ● | | | | |
| 24日 (金) | ● | | | | |
| 25日 (土) | | | | | |
| 26日 (日) | | | | | |
| 27日 (月) | | | | | |
| 28日 (火) | | | | | |
| 29日 (水) | | | | | |
| 30日 (木) | | | | | |
| 31日 (金) | | ● | | | |
| 6月 1日 (土) | | ● | ● | | ● |
| 2日 (日) | | | ● | | ● |
| 3日 (月) | | | ● | | ● |
| 4日 (火) | | | ● | | ● |
| 5日 (水) | | | ● | | ● |
| 6日 (木) | | | | ● | ● |
| 7日 (金) | ● | | | ● | ● |
| 8日 (土) | ● | | | ● | ● |
| 9日 (日) | | | | | ● |
| 10日 (月) | | | | | ● |
| 11日 (火) | | | | | ● |
| 12日 (水) | | | | | ● |
| 13日 (木) | | | | | ● |
| 14日 (金) | | | | | ● |
| 15日 (土) | | | | | ● |
| 16日 (日) | | | | | ● |

※各会場での上映プログラムについては、映画祭オフィシャルサイトに随時アップ致します。

■チケット販売に関して 前売券発売中

会場:表参道ヒルズスペースオー/ラフォーレミュージアム原宿/ブリリアショートショートシアター

■チケット価格(税込)

| | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1プログラム券 | 前売:1,000円 | 当日:1,200円 |
| プログラム1日券 | 前売:1,300円 | 当日:1,500円 |
| パスポート | 前売:4,000円 | 当日:5,000円 |

■販売方法

チケットぴあ

- ・電話予約:0570-02-9999
- ・店頭販売:ぴあ各店舗/サークルK・サンクス/セブン-イレブン
- ・インターネット:<http://t.pia.jp/cinema/>

【注意事項】

- ※当日券は映画祭開催期間中、東京スカイツリータウン(スペース634)、ラフォーレミュージアム原宿、表参道ヒルズ スペースオー、ブリリア ショートショートシアターの劇場窓口にて販売します。
- ※オールナイト上映のTOHOシネマズ六本木ヒルズではご利用できません。

会場:TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

■チケット価格(税込)

| | |
|----------|-------------|
| 1プログラム券 | 前売/当日1,000円 |
| プログラム1日券 | 前売/当日3,000円 |

■販売方法

- ・TOHO シネマズ六本木ヒルズ劇場窓口
- ・インターネット:<http://www.tohotheater.jp/>

【注意事項】

- ※チケットは劇場窓口とホームページにてお買い求めいただけます。
- ※パスポートはご利用できません。
- ※全席指定席となります。売り切れた場合、当日券の販売はございません。
- ※1日券は窓口のみの販売となります。

**【ミュージックShort部門／優秀賞・シネマチックアワード受賞作】
「ピンク スパイダー inspired by バッファロー5人娘」関連情報**

■「ピンク スパイダー inspired by バッファロー5人娘」詳細について

UULAが発信する映像と音楽のコラボ企画第一弾として制作されたUULAオリジナルのミュージックビデオ。2013年2月14日のサービス開始と同時に、UULAにて独占配信を開始。配信開始からUULAアプリ内のランキングで常に上位をキープしている人気コンテンツです。

現在も総合エンタメアプリUULAにて独占配信中！

タイトル表記:ピンク スパイダー inspired by バッファロー5人娘

アーティスト表記:倅田來未 × 蜷川実花 × 安野モヨコ

配信開始日:2013年2月14日(※UULAにサービス開始と同時)

出演者:倅田來未、太田莉菜、杉原杏璃、エリイ、玉城ティナ、柳俊太郎、北村諒、斎藤工、寺島進

演出:蜷川実花 原案:安野モヨコ作「バッファロー5人娘」(コルク)

プロデューサー:近藤大輔／宇田充／湯川裕一 製作:三宅裕士

制作プロダクション:アスミックエース 製作・著作:UULA

■UULA(読み:ウーラ)とは？

株式会社UULA(エイベックス・エンタテインメントとソフトバンクによる合弁会社)が運営するソフトバンクモバイルのスマートフォン向け総合エンタメアプリ。

映画やドラマ、アニメなど豊富な映像コンテンツに加え、ミュージックビデオやアーティストのライブ映像など多彩な音楽コンテンツをラインナップ。さらには映像と音楽のコラボレーションをテーマにしたオリジナルコンテンツまで、6万以上のコンテンツが月額490円で全て見放題。

■アーティスト関連情報

<倅田來未／最新情報>

7/31(水)夏を飾るプレミアム感満載の豪華3曲入りサマーシングルが発売決定!!

'約2年ぶり'に夏を飾る3曲入りのシングルが発売決定となりました!! 幅広い世界観で楽曲を発信し続ける今作も、それぞれ違うテイストのナンバーを綴っています。

「THE KODAワールド！」全開の1作に、是非、ご期待下さい！

・KODA KUMI LIVE TOUR 2013 JAPONESQUE 開催中

6月21日(金)大阪城ホール

6月22日(土)大阪城ホール

6月29日(土)横浜アリーナ

6月30日(日)横浜アリーナ